
曲目紹介

●モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart 1756－1791) オーストリアの音楽家。

○ピアノ・ソナタ第3番 変ロ長調 K281

モーツァルトのピアノ・ソナタは全18曲。最も有名な曲は第11番 イ長調 K331「トルコ行進曲付き」ですが、今回の演奏曲には含まれません。

第1番から第6番までの6曲は1775年(モーツァルト19歳)にミュンヘンの音楽愛好家のデュルニッツ男爵の依頼により書かれ、まとめて「デュルニッツ・ソナタ」と呼ばれています。番号付けもモーツァルト自身が行なっています。

ミュンヘンに行っていたのはオペラ「偽りの女庭師」の初演に立ち会うためです。このオペラは、モーツァルトの完成したオペラ17作の中の8作目(19歳で8作目!!)。

また交響曲に至っては1775年までには第30番までを作曲しています。ピアノ協奏曲も第5番まで書いています。このように多数の作品を書いていたのに、1775年までピアノ・ソナタが無いというのは不思議なことです。

理由として

- ・モーツァルトは即興演奏を得意としていた
- ・チェンバロに代わってフォルテピアノがはやり始めたなどがあげられています。

第3番は上述のように1775年の作品

第1楽章	Allegro	変ロ長調	2／4拍子
第2楽章	Andante amoroso	変ホ長調	3／8拍子
第3楽章	Rondeau Allegro	変ロ長調	2／2拍子

演奏時間 約15分

○ピアノ・ソナタ第17番 変ロ長調 K570

第17番は1789年2月の作品。最後の第18番も1789年の作曲です。

モーツァルトは、このソナタの作曲の直後の4月から6月にかけて住んでいたウィーンからドレスデン、ライプツィヒ、ベルリン、ポツダムといったドイツの都市を訪問しています。ウィーンで陥っていた経済的な危機を逃れるための就職活動だったのかもしれませんが。

第1楽章	Allegro	変ロ長調	3／4拍子
第2楽章	Adagio	変ホ長調	4／4拍子
第3楽章	Allegretto	変ロ長調	2／2拍子

演奏時間 約22分

○アダージョ ロ短調 K540

1788年の作品。ロ短調はモーツァルトには珍しい調性で、単独の作品ではこの1曲だけです。楽譜自体、不安げな見かけをしています。

1788年のモーツァルトは交響曲39番、40番、41番の3曲の名作を続けて作曲しオペラ「ドン・ジョバンニ」のウィーンでの初演など、音楽的には活発な活動が続けていた時期です。その中で、このアダージョのような暗い作品が登場したのは不思議です。



演奏時間 約8分

○ピアノ・ソナタ第2番 ヘ長調 K280

第2番も前述のように1775年の作品

第1楽章	Allegro assai	ヘ長調	3／4拍子
第2楽章	Adagio	ヘ短調	6／8拍子 シチリアーナ
第3楽章	Presto	ヘ長調	3／8拍子

演奏時間 約22分

★上述のように本例会ではモーツァルトのピアノ・ソナタの

最初期（1775年）と最後期（1789年）の作品が聞けるプログラムとなっています。

●ショパン（Fryderyk Franciszek Chopin 1810－1849）ポーランドの作曲家、ピアニスト。

○4つのマズルカ Op. 30

ショパンが生前に出版したマズルカは41曲、死後に出版された曲等を含めるとマズルカの総数は60数曲。

作品30は4つのマズルカから成ります。1837年の作品。

- ・ハ短調 Op. 30-1
- ・ロ短調 Op. 30-2
- ・変ニ長調 Op. 30-3
- ・嬰ハ短調 Op. 30-4

演奏時間 4曲で 約10分

○夜想曲第 17 番 Op. 62-1

ショパンの夜想曲は全 21 曲。

作品 62 は 2 曲から成り、1846 年の作品。ショパンが生前に出版したノクターンとしては最後のもの。

ロ長調 Andante 4 / 4 拍子

演奏時間 約 8 分

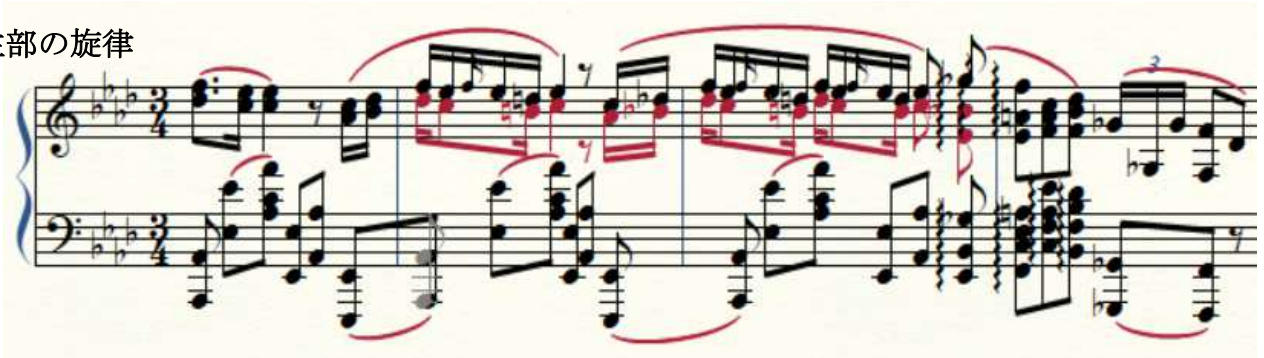
○ポロネーズ第 6 番 変イ長調 Op. 53 《英雄》

ショパンのポロネーズは全 17 曲。

第 6 番《英雄》は 1842 年の作品。

ピアノ曲としてほぼ最高レベルの演奏技術が要求され、ショパンの最高傑作のひとつ。

主部の旋律



中間部の左手のオクターブの連打は大変印象的です。



演奏時間 約 7 分。